第4回　（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会

議事要録

■　日　時	平成 20 年 11 月５日（水）　18：30～21：20
■　場　所	武蔵野商工会館４階市民会議室（ゼロワンホール）
■　出　席	寄本勝美委員長、田村和寿副委員長、早川峻委員、越智征夫委員、石黒愛子委員、広江詮委員、橘弘之委員、金子和雄委員、佐々木保英委員、前川智之委員、村井寿夫委員、井上良一委員、事務局（環境生活部環境政策担当部長、クリーンセンター所長他）、傍聴者 10 名

委員長　　：副委員長よりペーパーが配布されている。

副委員長より第３回委員会の論点、視点の説明（別添）

副委員長　：全体としてテーマの理解を共有することが重要。各委員それぞれの立場からの状況把握を通して課題が見えてきた。こういうことを積極的に捉えていくことが市民委員会の意義。３つのベースがある。深化や進捗よりも小委員会でなすべきことは広報が参加と協議。施設は時代を読んだ情報・知識の集積。

石黒委員　：広報小委員会について。10 月 23 日に小委員会を開いた。田村委員、橘委員、金子委員、石黒委員。武蔵野は移動人口が多く、過去のことを知らない人が多い。歴史的なことは皆さんお話していただくことが大事。なぜ建替えが必要なのかわかりやすく皆さんにお知らせする。手法的には立体的に、コミセンを利用しては。周辺は身近であるが、そうでない方はご存じない。そうでないところから始めようとなった。委員会自体を持ち回りでと言う話があったが、コミセン十数か所あるところでやってはどうかと言う案もあった。オープンハウスで意見を募るようなことも必要。それを各地でやるような取り組みができれば。

越智委員　：施設小委員会について。建替えの場合にどこが一番磨耗しているか市民全員がわかるように。どういったメンテナンスをしてきたか確認した。建物の器がＲＣ造のために中身だけ替えるには拡大の必要があり、費用面でどうなるかも表現できるようなことを議論した。

１．広報計画

事務局　　：広報小委員会について、議論された内容を広報計画にまとめている。市報特集号の見本を作成している。

副委員長　：広報の具体的な計画を示していただくといい。

事務局　　：勉強会の内容について企画書を作成している。コミセンの連絡会で明日お願いさせていただく。

委員長　　：狛江で行った取り組み。狛江ごみ１００人トークというのをやった。文献を取り寄せてもらうといい。

前川委員　：計画スタートとあり、なぜ建替えが必要かというのは今検討しているのでどうなのか。必要性については専門的でかなり難しい。数行で語れる話ではない。テーマとして掲げるのはいいが。

田村委員　：ダミーとしては良く作っているが、これは入門編のようなもので、質疑応答的なものでいいのでは。町によりやり方が違うのはなぜなのか。結論を先取りしている。

村井委員　：市民は知識がないが、協議会などやられている方は専門的になっている。更新であれば当然今の場所になる。当時は鉄筋コンクリートで、緑地を確保してやらねばならなかったが、それが手かせ足かせになっている。建てた時の状況の生々しい話をしては。市民公募としてはびっくりした話だったのでそのあたりがわかりやすく出てくるようにしたい。

橘委員　　：なぜ必要かを掲げる前に、歴史があり過去を振り返ってみることを出すべき。そのあたりをみんなに知ってもらうことから始めては。それがあってからなぜ建替えが必要なのかなとなる。

広江委員　：専門家ではないので市が出していただいた資料でそうかということしかない。それを市民に出してもわからない。今までと違う現状を伝えて。

石黒委員　：広報委員会で議論になったが、現施設を作るときにキャッチフレーズがあったがこの建替えにあたりどういったことを出していけばいいのかというのがあった。びっくりするのは１日１千万燃やしていますと言うようなこと。皆さんにインパクトを与えるようなものにしないとただの紙ごみになる。

委員長　　：今のご意見を踏まえながら検討いただきたい。

２．施設研究

事務局　　：前回委員会から資料を改善し、部会でも指摘をいただいて必要性について整理している。コンサルより説明する。

コンサルより「建て替えの必要性（資料２）」の説明

石黒委員　：前提条件の整理にあった補修・更新履歴の中に、追加した復水器なども入れておくべき。焼却関係だけでコストの話などしているが、粗大ごみ処理もある。市民の出すごみが変わったため復水器をつけたなどある。プラスチック

など入って高質化しているのは市民の責任。拡大生産者責任もある。こうなりますからこうなりますではなくて、こうしないといけない。

橘委員　：トータルで今までいくらかかっているというのをアピールして、新設するといくらというのを出してもらうといい。経済効果からはっきりできないか。

副委員長　：施設小委員会ではどういう話でこれをやったのか。

越智委員　：施設小委員会としては、どのくらいまで磨耗して費用がかかるというハード面での共通認識。わかりやすくやっていくのにどうしたらいいか。

委員長　：ごみをゼロにできるかということも探る必要がある。紙とプラと生ごみを減らせばほとんどなくなる。施設が要らなくなれば何十億が浮く。４人家族でどのくらいかかるか。

石黒委員　：一人当たり２万４千円。

広江委員　：建替えではなくてリフォームできないかにかなり時間を費やした。

早川委員　：ＲＣ（鉄筋コンクリート）が悪者のようになっているが、建設当時にここまでやるから住民が納得した。新施設でどうしたらいいか。Ｓ造で音などが出ないでいけるのか。どういう構造ならばいいのか。粗大の爆発の時も今の構造だから大丈夫で、Ｓ造ならダメなどあるかもしれない。今灰をエコセメントにしているが、セメントが売れなくなったらどうなるか。灰溶融をつけることも考えられ、その場合にはＲＣで増設は難しい。住んでいる方の安心。

村井委員　：ごみの高質化は免れない。プラごみをきれいに洗っても分けきれない。容器プラの基準も厳しくなっており、単身者の多い武蔵野では相当のエネルギーをかけてＰＲしないと変わらない。ボイラのように爆発の可能性のあるものはどこかで取り替えなければならない。安いかどうかだけでなく、危険性なども含めて少なくとも同等の金額であれば建替えすべき。

井上委員　：ごみ問題について一番市が考えるのは長期的な安定稼動。これが止まったら困る。下水にしても水にしても安定供給が一番。三鷹にお世話になりながら自区内処理をしてきた。この２つが一番大切になる。これらを踏まえると建替えということになる。環境面も重要になる。温室効果ガスがどうなるか。最後にまとめがあるとわかりやすい。

委員長　：東村山市でステーションを減らした。手数料を引き上げた。反住民的なことをして怒らないかと思ったが、一番市民の評価しているのは清掃事業だった。市民が大変ということは参加しているということ。追い詰められると悠長なことを言っていられない。

副委員長　：コンサルの説明はあれで理解できるが委員長の言われたように減量しないといけないと言うのもある。ごみの量と質がどうなっていくかが基本にある。長い連続したストーリーで武蔵野モデルを作っていく必要がある。連続性をどう担保していけるか。

佐々木委員：施設の傷み方はわかっていただけたかと思う。他の要因として、ごみの高質化が挙げられているが、設計にあたっては幅を持たせてやる。長い間で高質化し機械に無理が出てきている。ハード的な傷みの次に条件の変化による手直しが必要となっている。それが新しいものにすることの必要性。作り変えるのか改造するのか、これまでどれだけ修繕をやってきたのかを整理していけば、どのタイミングでやるのかが見えてくる。

石黒委員　：ハードのところでいろいろな話がされているが、一方で収集のシステムも田無市のごみ停を近くにするのと遠くにするので違うのと、姫路を見に行ったがステーションが遠くにありごみュニケーションをする場になる。武蔵野市は各戸収集などサービスが良すぎる。将来の計画ということでどこに照準を合わせるかわからないが、将来の使わなくなった時に別用途で使うという話があったが、こういう特殊な施設ではスケルトンインフィルでちょっとだけ入れ替えるという方法が適用出来るかわからないが。

前川委員　：当時のＲＣが今問題になっているのは都市型の焼却施設の今後が問われている。どう建物をつくるか。箱物と設備物をがんじがらめのＲＣでやるのが本当にいいことか。Ｓ造でなんとかできないか。景観の話も出てくる。住民の考え方も変えていく必要がある。都市型焼却施設の新しい形を提言していくことになる。

副委員長　：広島の新しい施設などはどうなのか。近年の事例は。Ｓ造なのか。

コンサル　：ピットはＲＣ造、地下は土圧などありＲＣ造、送風機などの騒音源はＲＣ造、その他はＳ造にして押出成型版を貼るような形。爆発などある破砕機などはＲＣ。

委員長　　：広島は合併により新市内にごみ処理を持っていこうとした。一斗缶で野焼きしてパセリが。効果を市民に還元しないと。

副委員長　：ハードルを越えないといけないが、プランニングしていくマネジメントをもう少し考えてもいいのではないか。ソフトとハードを連続させるのはある意味実験。ストレートにつながるかわからないが。我々が考えをコンクリートするのにもう少し考えてもいいのでは。

広江委員　：考えるのに前提条件がある。ごみの質、東村山のように分けて燃やさないといったところの条件、それからごみの量も決めないと処理方式を見ても規模が何トンまでとあるがこれが決まらない。市のほうで検討されている内容もあり我々がそこまでやる時間はない。ゼロにするなら施設は要らない。

佐々木委員：武蔵野市の基本計画があり、クリーンセンターの操作面でのデータが３０年あり、ごみの質のデータも持っている。施設基本構想の中で１２０トンと出ていた。その辺りはコンサルが予測して検討したものがあるはず。今日の資料にごみの流れが載っている。この中でどれを処理するという条件が決まっ

てくる。

広江委員　：基本構想の中で家庭内の貯留負担増との記入がある。このような施策があるなら、ごみの量も変わる。

石黒委員　：広江委員は基本計画の市民会議で当事者だったが、そのあとにごみ減量化協議会というのがあり具体的にやる組織がある。その中で考え方が変わる可能性もなくはない。したがって基本計画はコンクリートされたものだと思っていない。そのあたりも知りつつやらなければ整合性がなくなる。

事務局　　：第２期の減量化協議会を始めており、具体的なところまで入っていないが、レジ袋の削減をやろうとプロジェクトを進めている。チャレンジ 700 グラムというのがあり、減量を進めて事業系などやっており、780 くらいから 730 くらいまで落ちてきている。皆さんの努力や景気動向も影響している。

委員長　　：委員会でどこまでやるかというのはあるが、生ごみの処理は最近変わってきている。東京都の再生工場があるが生ごみが集まらなくて困っている。自治体の事業系の費用が安いためそちらに流れてしまう。民業を圧迫している。ごみの飼料化。東村山は生ごみの集団回収をしている。それらを踏まえて検討してダメにしても検討はする必要がある。ヨーロッパはコンポストが非常に進んでいる。

事務局　　：建替えの必要性はいただいた指摘を受け修正したい。先週広島の中工場に行ってきたが、左右がＲＣ造で中はＳで飛ばしている。耐用は５０年で入替えもできるように考えている。但しごみ質が変わらなければ。２４年前に想定できなかったことが起きてきているために簡単に入れ替え出来ない。プラント部分が７割を占め、これの全入替えが必要な時期に来ている。すでにリフォームはやっている。コスト論で表せると明確であるが、研究はするが数字に出来るかというのはある。小委員会でもう一度たたいてもらいたい。

事務局より「一般廃棄物処理基本計画から施設計画の検討（資料３－１）」の説明

佐々木委員：基本計画を見直すということか。何もしないでは済まないので検討しますとしてあるのか、本当に検討が必要でありこの委員会にその権限があるのか。

事務局　　：市民意見を踏まえ、検討するとしているが、まっさらにして検討するとしているわけではない。

コンサル　：基本計画は法律で決められたものでありここで見直すというのは本筋ではない。施設の基本計画をつくるにあたり出来るか出来ないかの検討は必要。

事務局　　：エコの連携を基本としストーカが基本線だが、他も検討するであるとか、基本方針につながっている。他に準備もあったが時間もあるので次の機会に。スケジュールの資料４を確認いただきたい。日程について、委員長と副委員

長のスケジュールが厳しく、次々回は 12 月 22 日。議事録については何かあればメール等いただきたい。

（※傍聴者の方の意見については別紙にて掲載）

――― 了 ―――（午後９時 20 分）